

令和3年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
2	1	6	災害対策費	150

部局名	市民部
課名	防災交通課

I : 事業概要

施策事業名	災害対策
事業目的	市民の安全・安心な暮らしを確保するため、各種防災対策事業を展開し、市防災体制の強化を図る。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業の全体計画 訓練の実施、設備の維持管理、備蓄品及び資機材の整備を推進し、防災体制の強化を図る。</li> <li>●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>○災害対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・木曾川破堤想定の上水表示看板の設置</li> <li>・避難行動要支援者とその支援者を対象とした防災訓練の実施</li> <li>・防災支援の実施 (家具等転倒防止器具取付、感震ブレーカー取付補助、防災倉庫設置補助、自主防災組織立ち上げ補助、自主防災組織資機材購入補助、県主催講座受講料補助)</li> </ul> </li> <li>○防災設備管理</li> <li>○備蓄品管理</li> <li>○防災設備整備</li> </ul> </li> <li>●主な決算の内訳 <ul style="list-style-type: none"> <li>・備蓄食料及び備蓄品の購入 9,024,609円</li> <li>・災害時緊急情報提供システム使用料(あんしんメール、電話、LINE) 3,270,019円</li> <li>・家具等転倒防止器具取付事業委託料 204,713円</li> <li>・Jアラート機器保守点検委託料 165,000円</li> <li>・浸水深表示看板設置業務委託料 324,500円</li> <li>・防災行政無線(移動系)更新業務委託料 15,378,000円</li> <li>・ハザードマップ更新業務委託料 3,020,600円</li> </ul> </li> </ul>
事業の成果・効果	新型コロナウイルス感染症の拡大により、実践的な避難訓練である総合防災訓練は規模を縮小し、避難行動要支援者とその支援者を対象に実施した。また、地域の住民に訓練を見学してもらい、周知をした。各種防災訓練が中止となる中、防災支援の補助金や町内会等の依頼に応じて防災講話を実施し、市民の防災意識の高揚、防災力の向上を図った。備蓄品に関しては、発電機等の資機材や賞味期限が到来する備蓄食料分を購入し、賞味期限が近い食料は学校給食で活用したり、訓練や出前講座で配布したりし、市民へ啓発した。防災無線に関しては、電波法等の改正により既存の無線が将来的に使えなくなるため、災害に強いMCA無線を導入した。

II : 個別事業内訳

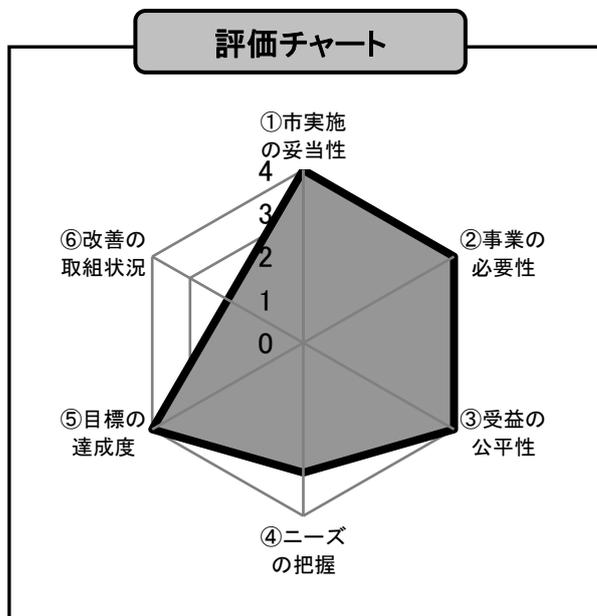
(単位: 千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		適時性確保 適応性向上	情報発信 ・共有化	業務の 効率化
災害対策事務	8,378	1,112	7,266	87%	3	3	3
防災設備管理	4,940	0	4,940	100%	3	3	3
備蓄品管理	9,033	1,748	7,285	81%	3	3	3
防災施設等整備	15,378	1,188	14,190	92%	2	2	2
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	37,729	4,048	33,681	89%	2	2	2

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R2決算	R3決算	R4予算
		46,401	37,729	26,844
財源内訳	国県支出金	15,941	2,978	1,448
	地方債	0	0	0
	その他	1,686	1,070	0
	一般財源	28,774	33,681	25,396
一般財源の割合		62%	89%	95%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	災害対策基本法第5条（市の責務）により、市が計画を作成し、それを実施する必要がある。
②事業の必要性	4	災害に備えた対策事務であり、発災時に欠かせないものである。
③受益の公平性	4	市民全体、個人から地域に対して幅広く行う業務である。
④ニーズの把握	3	個別のニーズが継続的にあるが、優先順位を判断し業務を実施している。
⑤目標の達成度	4	地域防災計画の見直し、防災訓練等の適切な実施、計画的な備蓄資機材の購入を行った。
⑥改善の取組状況	2	災害対応の中で、その都度改善を行った。他市の例を参考に、今後も継続的に改善を図っていく。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和3年度に見直しを実施した事項	備蓄品の適正な管理を実践するため、備蓄品の種類や数量の見直しを行い、備蓄品の新たな保管場所として福祉活動センター内の一部にスペースを確保した。実践的な避難訓練である総合防災訓練は規模を縮小し、健康福祉部と連携して避難行動要支援者及びその支援者を対象に実施した。
令和4年度に見直しを実施している事項	備蓄品の適正な管理を実践するため、在庫の管理システムを本格運用し、効率的な備蓄品の管理と整理整頓に努めていく。要支援者も含めた実践的な防災訓練を工夫しながら実施していく。
今後見直しを検討する事項	福祉避難所の開設及び運営が円滑にできるように、運用方法や体制づくりを検討していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和3年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
被災者の円滑な生活再建のための制度づくりや手法を整備することが課題である。	災害ケースマネジメントの制度や手法を研究し、体制づくりの検討を進めていく。

令和3年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
2	1	11	交通防犯対策費	162

部局名	市民部
課名	防災交通課

I : 事業概要

施策事業名	交通防犯対策								
事業目的	市民が安全に安心して暮らせる環境を確保するため、交通環境の整備を行うとともに、交通安全及び防犯に関する対策の促進を図る。								
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業の全体計画                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全及び防犯対策を図り、安全で安心して暮らせる環境を確保する。</li> </ul> </li> <li>●主な事業内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>【交通】                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通指導員を2名増員し、10名体制で児童の交通安全対策を強化</li> <li>・自転車乗車用ヘルメット購入費補助の実施</li> <li>・高齢者後付安全運転支援装置設置促進補助の実施</li> <li>・犬山警察署や町会長、市民団体と連携した交通安全運動（各種キャンペーン等）の実施</li> <li>・高齢者免許証自主返納支援事業の実施</li> <li>・交通安全啓発看板、反射鏡、停止指導線等の設置</li> </ul> </li> <li>【防犯】                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・犬山警察署や関係機関と連携した各種キャンペーン（自転車盗、振込め詐欺等）の実施</li> <li>・自主防犯パトロール団体等が行う青色回転灯装備車によるパトロール等防犯活動の支援</li> <li>・市防犯カメラの計画的な設置及び更新</li> <li>・補助錠やセンサーライトなど住宅を対象とした侵入盗への防犯対策費用の補助</li> <li>・町内会等が防犯カメラを設置する費用の補助</li> <li>・特殊詐欺防止用電話機器購入費用の補助</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>●主な決算の内訳                             <table style="margin-left: 20px; border: none;"> <tr> <td>・高齢者後付安全運転支援装置設置促進補助</td> <td style="text-align: right;">707,000円</td> </tr> <tr> <td>・自転車乗車用ヘルメット購入費補助</td> <td style="text-align: right;">868,800円</td> </tr> <tr> <td>・市防犯カメラの計画的な設置</td> <td style="text-align: right;">2,359,500円</td> </tr> <tr> <td>・防犯対策費補助</td> <td style="text-align: right;">788,600円</td> </tr> </table> </li> </ul>	・高齢者後付安全運転支援装置設置促進補助	707,000円	・自転車乗車用ヘルメット購入費補助	868,800円	・市防犯カメラの計画的な設置	2,359,500円	・防犯対策費補助	788,600円
・高齢者後付安全運転支援装置設置促進補助	707,000円								
・自転車乗車用ヘルメット購入費補助	868,800円								
・市防犯カメラの計画的な設置	2,359,500円								
・防犯対策費補助	788,600円								
事業の成果・効果	<p>犬山警察署や町会長、市民団体等と連携し、各季の街頭大監視をはじめとした交通安全運動を実施し、市民等の交通安全意識の高揚を図った。道路交通環境の整備に関して、土木要望に基づき、反射鏡関連（14件）、停止指導線（16件）、交通安全啓発看板（67件）を整備した。安全な地域づくりに関して、市内の主要な県道等へ新たに7基の防犯カメラを設置した。また、交通安全及び防犯に関する補助金を継続し、交通安全及び防犯意識の高揚を図り、安全で安心なまちづくりを推進した。【高齢者後付け安全運転支援装置設置補助（31件）、自転車乗車用ヘルメット購入費補助（471件）、防犯対策費補助（85件）、特殊詐欺防止用電話機器購入費補助（27件）】</p>								

II : 個別事業内訳

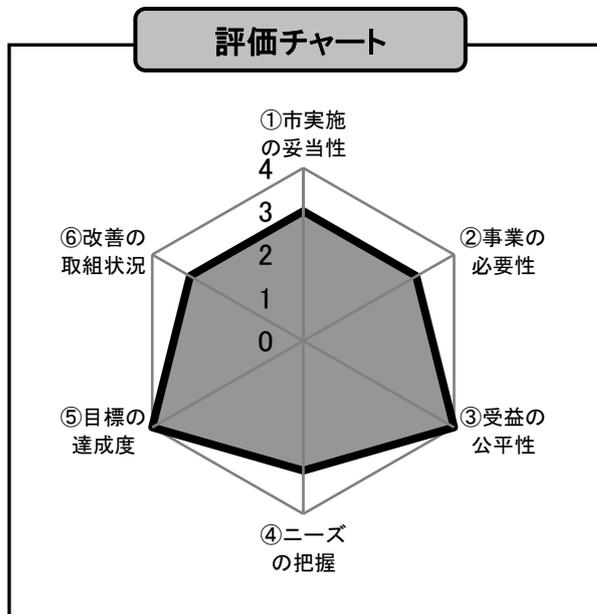
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		適時性確保 適応性向上	情報発信 ・共有化	業務の 効率化
交通安全対策事務	5,263	752	4,511	86%	3	3	3
交通安全対策施設整備	3,858	0	3,858	100%	3	3	4
自転車等駐車場管理	2,319	10	2,309	100%	3	3	3
公共交通網整備基金積立金	1	1	0	0%	2	2	4
防犯推進	7,754	0	7,754	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	19,195	763	18,432	96%	2	2	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R2決算	R3決算	R4予算
		21,562	19,195	19,088
財源内訳	国県支出金	1,468	752	400
	地方債	0	0	0
	その他	12	11	23
	一般財源	20,082	18,432	18,665
一般財源の割合		93%	96%	98%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市民にとって安全で安心なまちづくりを実現するために必要な事業である。
②事業の必要性	3	市民が安全に安心して生活する上で、交通安全や防犯活動に関する施策は必要な事業である。
③受益の公平性	4	全市民が対象となる事業である。
④ニーズの把握	3	町会長や土木常設員、PTA等を通して、交通安全や防犯に関する要望を随時受け付けており、ニーズを把握している。
⑤目標の達成度	4	新たに防犯カメラを7基設置した。また、町内会等へ防犯カメラの設置費補助を実施した。犬山警察署等と連携し、交通安全や防犯活動の啓発活動を定期的実施した。
⑥改善の取組状況	3	交通安全や防犯対策等について、他市町の例を参考に、今後も活動の幅を広げるとともに、改善を継続的に進める。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和3年度に見直しを実施した事項	高齢者運転免許証自主返納者支援事業のコミュニティバス回数券配布を1年度に1冊(5年間)ずつから、市民要望を受け、1回の申請で5冊を渡すよう見直しをした。財政援助団体(犬山扶桑防犯協会、犬山交通安全協会)の事業内容を精査し、補助金額等を見直した。
令和4年度に見直しを実施している事項	防犯カメラを計画的に継続して増設する中で、メンテナンスを適切に行うため、防犯カメラの一部をリース化する。
今後見直しを検討する事項	高齢者運転免許証自主返納支援事業の効果的な推進方法を検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和3年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
市民生活に不安や脅威等を与える犯罪や交通事故などは依然として後を絶たない。市民が安全で安心して暮らすことができる環境の整備が必要である。	犯罪の未然防止のため、計画的に道路等へ防犯カメラの設置を進める。(設置場所については、犬山警察署と協議し、より効果的な場所を選定)

令和3年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
2	1	11	交通防犯対策費	162

部局名	市民部
課名	防災交通課

I : 事業概要

施策事業名	コミュニティバス運行																		
事業目的	交通空白地に居住する交通弱者等の交通手段の確保と日常生活の支援拡充を図る。																		
事業内容	<p>●全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が安全に安心して移動できるよう、運行事業者と連携し、わん丸君バス（コミュニティバス）を運行する。</li> <li>・利用者の利便性向上のため、アンケート調査などを通し、ニーズの把握及び分析を進める。</li> </ul> <p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わん丸君バス車両8台、8路線、月曜日から金曜日の平日毎日（祝日含む）運行</li> <li>・バスロケーションシステム運用、パス券の販売、PayPay決済の導入</li> <li>・わん丸君バス再編に向け、バス利用者や市民アンケート調査を実施し、市民ニーズの把握と利用傾向などの分析、整理</li> <li>・市内の小中学生から公募決定した愛称「わん丸君バス」を車体（8台）にラッピング</li> <li>・インターネット経路検索を可能とする、標準的なバス情報フォーマット（GTFS）の提供</li> </ul> <p>●運行状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>〔期間〕</th> <th>〔乗車人数〕（前年比）</th> <th>〔1人当りの運行負担金〕</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29.4 ~ H30.3</td> <td>84,279人（1,110人減）</td> <td>641円（+9円）</td> </tr> <tr> <td>H30.4 ~ H31.3</td> <td>94,602人（10,323人増）</td> <td>591円（△50円）</td> </tr> <tr> <td>H31.4 ~ R2.3</td> <td>121,876人（27,274人増）</td> <td>524円（△67円）</td> </tr> <tr> <td>R2.4 ~ R3.3</td> <td>90,736人（31,140人減）</td> <td>704円（+180円）</td> </tr> <tr> <td>R3.4 ~ R4.3</td> <td>97,809人（7,073人増）</td> <td>654円（△50円）</td> </tr> </tbody> </table> <p>●主な決算の内訳</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバス再編事業 4,950,000円</li> <li>・コミュニティバス運行負担金 63,960,109円</li> <li>・「わん丸君バス」車体ラッピング 896,500円</li> <li>・印刷製本費（乗車券、路線図・時刻表等） 885,995円</li> </ul>	〔期間〕	〔乗車人数〕（前年比）	〔1人当りの運行負担金〕	H29.4 ~ H30.3	84,279人（1,110人減）	641円（+9円）	H30.4 ~ H31.3	94,602人（10,323人増）	591円（△50円）	H31.4 ~ R2.3	121,876人（27,274人増）	524円（△67円）	R2.4 ~ R3.3	90,736人（31,140人減）	704円（+180円）	R3.4 ~ R4.3	97,809人（7,073人増）	654円（△50円）
〔期間〕	〔乗車人数〕（前年比）	〔1人当りの運行負担金〕																	
H29.4 ~ H30.3	84,279人（1,110人減）	641円（+9円）																	
H30.4 ~ H31.3	94,602人（10,323人増）	591円（△50円）																	
H31.4 ~ R2.3	121,876人（27,274人増）	524円（△67円）																	
R2.4 ~ R3.3	90,736人（31,140人減）	704円（+180円）																	
R3.4 ~ R4.3	97,809人（7,073人増）	654円（△50円）																	
事業の成果・効果	利用者が安全に安心して移動できるよう、運行事業者と連携してわん丸君バスを運行した。わん丸君バス再編に向け、バス利用者実態調査や市民アンケート調査を実施し、市民ニーズの把握に努め、利用傾向などの分析、整理を行った。																		

II : 個別事業内訳

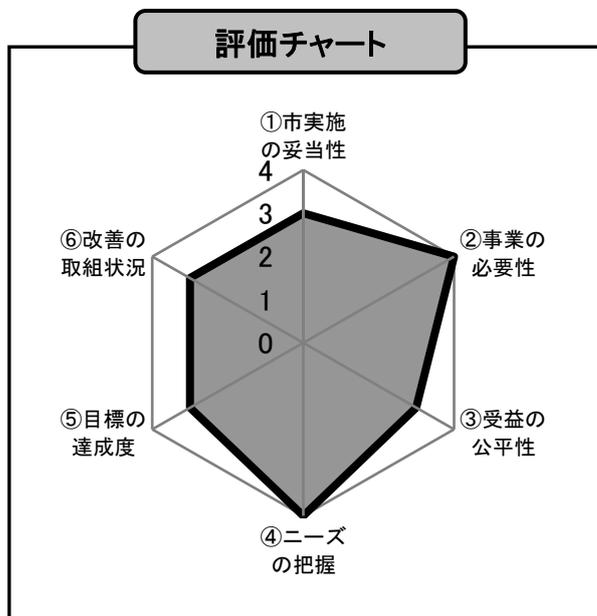
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		適時性確保 適応性向上	情報発信 ・共有化	業務の 効率化
コミュニティバス運行	71,710	1,152	70,558	98%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	71,710	1,152	70,558	98%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R2決算	R3決算	R4予算
		64,795	71,710	83,045
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	1,005	1,152	3,719
	一般財源	63,790	70,558	79,326
一般財源の割合		98%	98%	96%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	高齢者などの交通弱者に対する移動サービスの提供として、わん丸君バス等の公共交通は必要不可欠であるが、民間事業者がバス事業から撤退しており、交通弱者の移動手段を確保するため、市が主体的に実施しなければならない。
②事業の必要性	4	わん丸君バスは高齢者などの交通弱者が、買い物や病院へ行くための貴重な移動手段となっており、日常生活に直結する事業である。
③受益の公平性	3	年間延べ97,809人がバスを利用している。運賃は大人1日200円。
④ニーズの把握	4	バス利用者実態調査と市民アンケート調査を実施し、市民ニーズを把握している。
⑤目標の達成度	3	コロナ禍で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により、不要不急の外出を自粛する要請があり、乗車人数は97,809人(前年比7,073人増、7.8%増)と微増であった。
⑥改善の取組状況	3	バス利用者実態調査及び市民アンケート調査を実施し、ニーズの把握、利用傾向の分析を行った。今後のバス再編における資料として活用していく。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和3年度に見直しを実施した事項	バス車体、バス停、時刻表・路線図の表記を愛称のわん丸君バスに変更した。運賃の支払方法の多様化に対応するため、キャッシュレス決済を導入した。時刻表・路線図に医療機関の最寄りのバス停を表示した。インターネット経路検索を可能とする標準的なバス情報(GTFS)を提供した。
令和4年度に見直しを実施している事項	わん丸君バス再編による運行ルートやダイヤの見直し案を作成する。交差点付近にある危険性の高いバス停留所の見直し案を作成する。まちづくりと連携した公共交通ネットワークの構築を図るための地域公共交通計画の策定に向け、計画策定の準備や資料収集整理、地域特性や課題の整理を行う。
今後見直しを検討する事項	デマンド交通導入を検証し、地域の実情に適した利便性の高い公共交通の実現を検討し、地域公共交通計画を策定する。バスの路線と行き先をバスの利用者がわかりやすいように表示する方法を検討する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和3年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
限られた車両数と路線が長大であることから、1日あたりの便数に限りがある。また、乗り継ぎのための待ち時間減少など、さらなる利便性の向上を検討する必要がある。	利用実態やニーズに対応した効率的なバスの運行(ルート、ダイヤ)を研究する。また、地域公共交通計画を策定し、わん丸君バスだけでなく、様々な移動手段の組み合わせを研究し、市全体の公共交通ネットワークの形成を図る。